



Saica NEWS

Saitama international cooperation action News

2021
Vol.3



MaWaSU2プロジェクト年次報告セミナー



2022年1月12日-13日の2日間、MaWaSU2プロジェクトの年次報告セミナーが開催されました。MaWaSU2ではプロジェクトの成果をラオス内外の水道関係者に発信するためのセミナーを1年に1回開催しており、今回が4回目の開催です。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今回は初めてオンライン主体での開催となりました。

2日間にわたるセミナーでは、プロジェクトの各Outputについてカウンターパートから成果報告があり、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県、3つのパイロット水道公社からの発表に加え、その他6県の水道公社からも発表があり、プロジェクト後半戦の大きなテーマである、全国水道公社への活動拡大に手ごたえが感じられました。



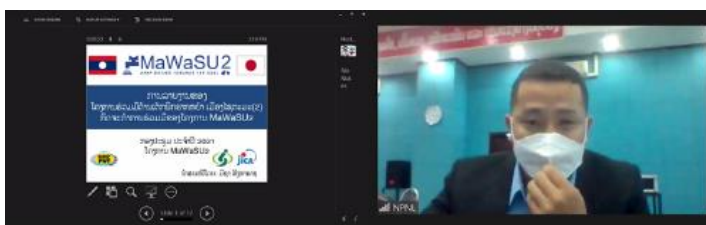
本会場の様子①
(セッションを取り仕切る石川チーフアドバイザー)



本会場の様子②
(厚生労働省からのビデオメッセージ)



ラオス全国からのオンライン参加の様子
(日本からは連携4事業者と民間企業が参加)



MaWaSU2-草の根連携チームも成果を報告

厚生労働省と日本の民間企業が参加した日本セッションや、MaWaSU2と草の根技術協力事業の連携活動報告など、オンラインで制約がある中で工夫し多彩なセミナー構成となりました。

来年度こそは現地で関係者が一堂に集い、プロジェクトを盛り上げることができればと思います。



2022年度国際協力事業の見通し



2022年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の流行が続き、先の予測が難しい状況ですが、世界的に出入国における隔離措置が緩和傾向にあるため、短期の派遣を再開できる前提で準備を進めています。

MaWaSU2プロジェクトは残り2年を切り（2023年12月終了予定）目標達成に向けた活動の終盤に入っています。プロジェクト終了後も全国的な活動が継続できるよう、新たに設立されたラオス水道協会（Lao Water Works Association/LWWA）を活用した活動形態へのシフトを図っています。

草の根技術協力事業は2022年度が最終年次となり、現地での活動は遅くとも2023年1月までの予定です。2年間にわたり現地派遣ができていない状況でしたが、2021年度にオンライン活動で一定の立て直しができたので、最後の1年で目標が達成できるよう、現地派遣とオンラインの併用で活動を継続していきます。

2020年度、2021年度と短期派遣と研修員受入ができなかったことで、実施している2つのJICA事業が遅れたことに加え、国際協力における人材育成も大きな影響を受けています。2022年度はコロナの収束如何に関わらず、局内の国際協力ワーキンググループ活動を再開しますので、興味のある方はぜひ参加をお願いします。

①JICA技術協力プロジェクト(MaWaSU2)

- ・長期専門家派遣(チーフアドバイザー)
2021年5月8日～ 石川主幹
- ・短期専門家派遣(土木又は水質)(1.5-3ヶ月)
※ラオス入国後、日本帰国後2週間隔離措置の緩和状況を踏まえて実施を検討。
- ・研修員受入(計画・財政、水質)
※ラオス入国後、日本帰国後2週間隔離措置の緩和状況を踏まえて実施を検討。
- ・プロジェクト活動年次報告セミナー
2022年12月実施予定
※新型コロナウイルス感染症の状況により、2021年度同様オンライン開催の可能性あり。

②JICA草の根技術協力事業

- ・職員派遣
フォローアップ派遣(3都県)(2名×2週間)
カムアン県派遣(3名×2週間)
ルアンパバーン県派遣(3名×2週間)
首都ビエンチャン派遣(3名×2週間)
※ラオス入国後、日本帰国後2週間隔離措置の緩和状況を踏まえて実施を検討。
- ・研修員受入
※ラオス入国後、日本帰国後2週間隔離措置の緩和状況を踏まえて実施を検討。
- ・クロージングワークショップ開催
※新型コロナウイルス感染症の状況により、実施可否を判断。



自治体水道国際展開プラットフォーム



・プラットフォームの目的と概要

本プラットフォームは、水道事業体と日本水道協会が連携・協力して国際展開、国際協力を推進するための情報共有・意見交換の場として、平成22年度より年1回程度開催されているものです。

・第13回定例会議のテーマ

今回はコロナ禍における開催であったため、2022年1月12日にオンライン開催となりました。先進的な取組みとしてオンライン研修を積極的に実施している水道事業体（札幌市水道局、横浜市水道局）からの事例報告や、JICAからは国際協力事業の最新動向について共有がありました。



ラオスの生活と文化③ 観光と世界遺産



ラオスは近年観光に力を入れているものの、周辺諸国と比較しまだまだ開発途上で、手つかずの観光資源が数多く残されています。

世界遺産としては文化遺産に3カ所が登録されており、中でもルアンパバーンは国内外から人気の観光地です。メコン川に面した伝統的な街並み、多くの寺院、滝巡り、エレファントライドにボートツアーなど、ラオスで最もアクティビティーが充実したエリアです。残りの2つはワットプー寺院（チャンパサック県）とジャール平原（シェンクワン県）で、海外からの観光客はまだまだ少ないです。

カンボジアのアンコールワットのような目玉こそありませんが、他の東南アジアにはないラオス特有のゆったりとした空気と人柄が、多くの人が虜になる理由です。



古都ルアンパバーン①（1995年登録）
街全体が世界遺産



ワットプーと関連遺跡群（2001年登録）
ワットプー山頂からの景色



ジャール平原（2019年登録）
巨大な石壺が数多く残る



古都ルアンパバーン②
新旧カフェやレストランが入り混じる



ラオスのCovid-19状況



2022年3月28日現在、ラオスの新型コロナウイルス感染症の陽性者は計169,256名、死亡者は661名です。2021年12月以降は感染者数が減少傾向にあり、規制も徐々に緩和されてきましたが、2022年3月に入りラオスでもオミクロン株が広がり、陽性者は再度増加に転じてしまったようです。

一方で現地活動再開にあたり、ラオスの入国条件のうち「入国後14日間の指定ホテルにおける隔離待機」が大きな障害となっていました。この期間が7日間に短縮され、かつ、PCR検査陰性が確認された後はその期間内であっても特定の勤務場所とホテルの往復は可能となる見込みです。制約が完全に撤廃されるわけではないものの、大幅な規制緩和方針であるため、引き続き動向を注視し派遣再開に向け調整していきます。



ラオス18都県の位置図
（太字3都県がJICA2事業の主な支援対象）



発行：さいたま市水道局
業務部経営企画課経営企画係
TEL 048-714-3185

● JICA技術協カプロジェクト (MaWaSU2)、JICA草の根技術協力事業の詳細は
JICA (MaWaSU2) ⇒ <https://www.jica.go.jp/project/laos/023/index.html>
JICA草の根 ⇒ <https://www.city.saitama.jp/001/006/002/034/001/p063565.html>